

特定電子メール等による電子メールの送受信上の支障の防止に資する技術の研究開発及び電子メールに係る役務を提供する電気通信事業者によるその導入の状況（概要）

1. 移動系電気通信事業者による迷惑メール対策技術の導入状況

・迷惑メール対策機能の簡易設定

各種迷惑メール対策機能を一括して設定できる簡易な設定サービスの提供が進みました。

・Outbound Port 25 Blocking (OP25B) の導入

携帯電話や PHS によるインターネット接続サービスを利用した電子メールの送信について、携帯電話をあて先としたものに加え、固定系 ISP をあて先としたものについても OP25B の導入が進みました。

Outbound Port 25 Blocking (OP25B) : ISP が自社発のメールに関して、自社の管理するメールサーバを経由しない動的 IP アドレスからのメール送信をブロックする手法

2. 固定系電気通信事業者による迷惑メール対策技術の導入状況

OP25B 及び送信ドメイン認証は、効果的な迷惑メール対策技術であるところ、総務省ではこれらの技術についての法的な整理（※）を行い、その導入を促進してきたところです。

（※）総務省ウェブサイト (http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/d_syohi/jigyosha.html)

（1）OP25B について

OP25B については、迷惑メールに対する技術的解決策等を検討する民間団体である JEAG (Japan Email Anti-abuse Group) による勧告や、総務省による法的な整理を踏まえ、日本の大手 ISP の大部分において導入されています。

（2）送信ドメイン認証について

送信ドメイン認証は、Sender Policy Framework (SPF) や Domainkeys Identified Mail (DKIM) といった、予め登録された電子メールの送信元の情報（どのサーバから送信されてきたか等）を受信側で認証する技術であり、迷惑メールに多く見られる送信ドメインを偽った電子メールを判別することを可能とするものです。日本の大手 ISP では、SPF に基づく電子メールの送信元の情報の登録がなされているほか、送信ドメイン認証を用いた迷惑メールの判定も進められています。